

LIBRARY INFORMATION ライブラリーインフォメーション

「博物館っておもしろい!」人気の本5選

これからの夏休み、博物館めぐりに参考になる本5冊をご紹介します。  
※5月に行った図書展示「博物館っておもしろい!」の中からオススメします。

- 『ミゼオロジーへの招待』  
●新見 隆 / 編 ●出版社: 武蔵野美術大学出版局
- 『東京マニアック博物館』  
●町田 忍 / 監修 ●出版社: メイツ出版
- 『みんなのミュージアム』  
●塚原 正彦 / 著 ●出版社: 日本地域社会研究所
- 『タダで楽しむ東京とおきスポット』  
●オフィス・クリオ / 著 ●出版社: メイツ出版
- 『館長庵野秀明特撮博物館』  
●スタジオジブリ / 編 ●出版社: 日本テレビ放送網

大人のボードゲーム部@日比谷図書文化館

第2回「チケット・トゥ・ライド」

- 日時: 7月10日(火) 18:30~21:00 (18:15開場)
  - 会場: 4階セミナールームA
  - 定員: 24名(事前申込制) ●参加費: 無料 ●対象: 高校生以上
  - 申込方法: 電話(03-3502-3343)、来館(2階図書総合カウンター)
- いずれかにて、お名前と電話番号をお知らせください。

「チケット・トゥ・ライド」とは?

19世紀末ごろの鉄道旅で勝負する現代ボードゲームの大作。自分の色の列車でルートをつなぎ、その長さや訪れた都市などで得点を競う、シンプルルールと奥深さを両立させた世界的人気作です。他のボードゲームのご用意もあります。初心者大歓迎! 皆様のご参加をお待ちしています。

Exhibit Information 7月の展示情報 ※展示情報は変更の場合がございます。

**3F プリン** 「ポスト・トゥルースの時代」(~10/12) (NEW)  
誰もが情報を発信できるようになった時代、情報源(ソース)の信憑性や発信する側の責任・モラルが問われる中、世の中に溢れる「情報」との向き合い方を展示を通して考えていきます。

**3F プリン** 「夜」(~9/14)  
日比谷図書文化館は、平日は夜10時まで開館しています。そこで夜とい時間帯の魅力に迫り、夜の有効な活用方法、文学や芸術における「夜」の捉え方などを紹介します。

展示 PICK UP

■2Fパーフルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン ~9/14(金)

**大正モダン**  
大正時代には和の文化とアール・ヌーヴォーなど西洋から伝わった文化が合わさり、独特の華やかな流行が生まれました。当時の広告やポスター、本の装丁などを見てみると、レトロモダンの美しいデザインが顔を覗かせます。この展示では大正時代のデザインを中心に、文学、社会、当時の暮らしについての本を集めました。ぜひご覧ください。



■2Fパーフルゾーン(三角台) ~8/7(火)

[1階特別展] 大正モダナーズ 大正イマジユリと東京モダンデザイン 関連展示

6月8日から始まった特別展にあわせて、大正時代の斬新で人目を惹くモダンなデザインについて紹介します。小村雪岱や杉浦非水を始め、この時代に活躍した挿絵画家や図案家が手がけた本の装幀や広告、商品パッケージに関する資料を展示しています。また、7月1日まで開催される千代田区と東京ステーションギャラリーが共催する「夢二線流」展についても紹介しています。

ふれやの相合傘など、遊び心あふれる作品に注目。

▶ 便箋・封筒などの和文具

▶ 夢二のデザイン 前文芸と装幀

竹久夢二 著 芸艸堂 2009年

くくくこの作品世界は今も見る者を魅了する。

▶ 繊細な線画で江戸を描く

『意匠の天才 小村雪岱』

原田治 平田雅樹 山下裕二 他 著 新潮社 2016年

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

【特別展】 大正モダナーズ

大正イマジユリと東京モダンデザイン



本や雑誌、ポスター、絵はがき、広告、漫画、挿絵、装幀(ブックデザイン)など、イマジユリと呼ばれる大衆的な複製としての印刷・版画が人々を魅了した大正時代。杉浦非水や竹久夢二、小村雪岱らが手がけた、いま見ても斬新で魅力的なデザインは、西洋の影響が入り交じりながらも、日本ならではの独創的な発想から生まれ、人気を博しました。本展では、大正とその前後の商業デザインや、当時の東京モダンデザインを中心に、いまなお、あたらしいデザインの世界を紹介します。

モダン節

時雨音羽 作詩  
佐々紅華 作曲  
杉原千加子 編曲

上) 高島華宵「少女装束」第17巻第3号表紙(部分) 1928(昭和3年)

下) 斎藤佳三「モダン節(セクター・ハーモニーカ楽譜NO.37)」(部分) 1929(昭和4年)

2018 開催中 ▶▶▶ 8/7(火)まで  
※ 休館日 7月16日(月・祝)

◆開室時間: 平日 10:00~20:00  
土曜 10:00~19:00  
日祝 10:00~17:00  
(入室は開室の30分前まで)

◆会場: 千代田区立日比谷図書文化館  
1階特別展示室

◆観覧料: 一般 300円  
大学・高校生 200円

千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料 ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。

◆主催: 千代田区立日比谷図書文化館  
◆監修: 山田俊幸 ◆協力: 大正イマジユリ学会  
◆企画協力: キュレイターズ



左) 杉浦非水「東京」(第2巻第3号)1925(大正14)年  
中) 小林かいち(二男梅の女)1925(大正14)~1926(大正15)年頃  
右) 作者不詳「商店図案集」より 1928(昭和3年)

◆ 本展のみどころ ◆  
杉浦非水の図案、商業デザイン  
明治・大正・昭和デザインの第一人者、杉浦非水の図案、タバコパッケージデザインなどを紹介。

竹久夢二、小村雪岱など多くの画家が手がけた書籍、雑誌、装幀、挿絵  
著名な画家が手がけた装幀を中心に、いまなお斬新なデザインの書籍、雑誌等を紹介。

高島華宵の表紙絵、口絵などから見るモダンファッション  
大正から昭和にかけてのモダンデザインやライフスタイルを、東京を中心に紹介。

From Chiyoda Public Library [千代田区立図書館からのお知らせ]

千代田図書館で学ぼう! 夏のわくわく課外授業 2018

毎年恒例の夏休み企画です。さまざまな分野で活躍する方が先生となって楽しい授業を行います。お子さんとのご参加お待ちしております!

**理科** 地球温暖化と海 ~海を測るフロートの仕組み~  
▶ 7月26日(木) 14:00~15:30 ▶ 場所: 千代田図書館9階 第1研修室

**図工** 印刷と製本に挑戦! 自分だけのノートをつくらう  
▶ 7月28日(土) 11:00~13:00 / 2回目 14:00~16:00  
▶ 場所: 千代田図書館10階 特設イベントスペース

**国語** 遊んで学べる! 辞書カルタをつくらう  
▶ 8月18日(土) 14:00~16:00 ▶ 場所: 千代田区役所1階 区民ホール

●対象: 小学校4~6年生の児童とその保護者(事前申込制、理科:無料、図工・国語:各300円)  
※詳細はホームページなどでご確認ください。お問い合わせ先: 千代田図書館 電話03-5211-4289・4290

calendar 開館時間: 平日10時~22時 ■ 土曜10時~19時 ■ 日祝10時~17時 ■ 休館日

2018年7月							2018年8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11
8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18
15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25
22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29	30	31	
29	30	31											

■ 問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4  
TEL: 施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

access [都営地下鉄] ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分 [東京メトロ] ●丸の内線 ●日比谷線 ●有楽町線 ●千代田線 ●千代田線「日比谷駅」A14出口 徒歩3分 JR「新橋駅」C4出口 徒歩3分 JR「新橋駅」徒歩10分 ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 7・8月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 7/1 (日) 児童文芸誌「赤い鳥」創刊100年 黎明期の童謡・童話・童画の世界

- 歌：青山 恵子(メゾソプラノ歌手)、真幸 操(ソプラノ歌手)
- アコーディオン：せきた さいらい(アコーディオン奏者)
- 朗読：桜井 春江(声優)、おの まり(歌手・ミュージカル俳優)
- 紙芝居：NPO法人はばたけ千早 語：部部会
- 司会：湯浅 奈緒美(一般社団法人：ラヴァンス Lávance32 代表)
- 企画：小野 清子(音楽の泉プロジェクト代表)ほか

今から百年前、夏目漱石門下の鈴木三重吉が子供達の為に芸術性豊かな作品をと創刊した児童文芸誌「赤い鳥」は、北原白秋や芥川龍之介ら当時一流の作家達の協力を得て全国に広がり、童謡、童話、童画が誕生しました。その代表的作品を朗読や紙芝居、歌とアコーディオンの演奏でお届けします。(主催：音楽の泉プロジェクト 共催：日比谷図書文化館)

- 日時：7月1日(日)14:00～16:00 (13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1500円



「赤い鳥」創刊号(大正7年7月1日)

## 7/4 (水) 池波正太郎の食卓

講師：重金 敦之(文芸ジャーナリスト)

小説の中に、池波正太郎ほど食べもののシーンを巧みに取り入れた作家はいません。ごありふれた野菜や江戸前の魚介の描写は、読者の味覚を刺激します。私生活でも、食べることが大好きでした。朝日新聞の名編集者として、池波正太郎と接してきた重金敦之氏が、食べ物を通して池波ワールドの魅力・エピソードを語ります。

- 日時：7月4日(水)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名
- 参加費：1000円(千代田区民500円)



## 7/13 (金) 柳宗悦と濱田庄司 一民藝を生きる二人のダイアローグ

講師：松井 健(東京大学名誉教授)

柳と濱田は民藝を主張して、それらしくきわめて充実した人生を歩みましたが、その二つの軌跡は互いに共鳴する見事なダイアローグ(会話)をなしています。柳と濱田の事跡やエピソード、人生の風景に具体的にふれつつ、二人の人生の交錯をたどり、民藝の原義を考えてみることにしたいと思います。

- 日時：7月13日(金)19:00～20:30 (18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1000円



＜参加申込＞電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

## 7/21 (土) 世界の新しいマンガたち —グラフィック・ノヴェルの冒険

講師：小野 耕世(海外マンガ研究者・翻訳家)

世界のマンガ状況が、いま変わりつつある。文学書と同じあつかいで、マンガが新聞などで書評される例が目につくようになった。それらはくグラフィック・ノヴェル(青土社)の名のもとに、欧米諸国、いや南アフリカ共和国からも刊行され、注目をあびつつある。私が2001年に出した『世界のコミックスの想像力』(青土社)という本には「グラフィック・ノヴェル」という副題をつけたものだが、ついにそれが、講演のタイトルにふさわしい時代になったのかも知れない。

- 日時：7月21日(土)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円

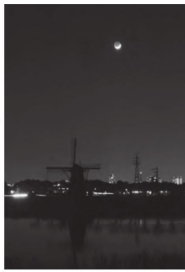


## 7/26 (木) 星と旅するワールドツアー ～世界の星の歴史と文化～アメリカ大陸編

講師：皆川 敏春(星のソムリエ@みたく)

ヨーロッパ世界で地球は丸く動き出してから、天文学の波は西の彼方、ひとつの大陸へと到達しました。そこから宇宙の果て、火星、冥王星、スペースシャトルといった誰もが興味を引かれる話題を提供しています。天文学の舞台は、どのようにして移り変わって行ったのでしょうか。今回はアメリカに渡ります。

- 日時：7月26日(木)19:00～21:00 (18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円



「夜想曲」撮影：皆川 敏春氏

## 8/5 (日) 詩人・四國五郎が伝えたかったこと 『絵本 おこりじぞう』朗読

講師：木内 みどり(女優) 四國 光(四國五郎 長男)

1979年に発売後も長く版を重ね、原爆を知るための絵本や平和教育の副教材としても広く活用されている『絵本 おこりじぞう』。今回は木内みどりさんによる朗読と、この絵本の表紙画・挿画を描いた四國五郎という「表現者」が息子の目から見てどのような人物であったかを、膨大な作品の一部をご覧いただきながらお子息である四國光さんによるお話とで紹介いたします。

- 日時：8月5日(日)14:00～16:00(13:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円



在りし日の四國五郎氏

## 8/8 (水) 心を育み脳が紡ぐ 生命の進化の来し方行く末

講師：入来 篤史(理化学研究所・生命機能科学研究センター・象徴概念発達研究チーム チームリーダー)

私達の心は、臓器の一つである脳が、「成長を前提とした円環」的な進化によって手に入れた、生命現象の一つです。つまり、脳(神経ニッチ)が膨大し、知的能力(認知ニッチ)が高まり、知性で世界(環境ニッチ)を改造し、その環境に適応してまた脳が大きくなる、という「三位一体ニッチ構築」です。すると、成長を前提とした私たちの世界は、やがて行き詰まってしまうのでしょうか?一緒に考えてみたいと思います。

- 日時：8月8日(水)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1000円



## 8/9 (木) 展覧会への人口講座 vol.24 喧噪の巷へー「江戸名所図屏風」を歩く

講師：廣海 伸彦(出光美術館学芸員)

新興都市・江戸を眺望する絵画のうち、「江戸名所図屏風」(重要文化財)は明暦の大火(1657)以前の様子を伝える貴重な作例です。全長10メートル近い画面には、労働に動かし、歓楽街に集い、日々の暮らしを謳歌する人々の姿が、豊かに表現されています。今回は、この作品を中心に江戸を描く都市の魅力を紹介いたします。

- 日時：8月9日(木)19:00～20:30 (18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)



江戸名所図屏風(左隻部分) (重要文化財)

## 8/17 (金) ジェーン・スーさんと考える 一親のこと、わたしのこれからのこと

講師：ジェーン・スー(コラムニスト・作家・ラジオパーソナリティ)

仕事・育児・介護・日々を懸命に生きる女性から熱い支持を受けるジェーン・スーさん。一人娘でもあるスーさんが今向き合うのは「父親」。働き盛り世代は親子関係も大きく変化するときです。実は知らない親のこと、問わり方、そして自分のこれからスーさんと考えます。

- 日時：8月17日(金)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1000円



## 8/24 (金) 上廣：日比谷ライブラリー・レクチャー シリーズ「私の修業時代」 言葉を極め、言葉を超越る言霊の探求の旅 ～私の修業時代

講師：鎌田 東二(上智大学教授・グループワーク研究所特任教授)

私は10歳の時、宮崎県の青島に立ち寄り、「古事記」の中の日向神社に登場する神々が、この神社の神様として祀られていることに衝撃を受け、神話と場所(神社)が強烈に接続される体験を持ちました。以来、言葉、詩、神話とは何か、超越経験や宗教経験とは何かを問い続けています。その探究のプロセスを話します。

- 日時：8月24日(金)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：500円(千代田区民・学生無料)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



## 8/30 (木) 三国志の世界ー諸葛亮と曹操

講師：渡邊 義浩(早稲田大学文学部教授)

今から1800年ほど前、中国の2～3世紀を描いた『三国志』は、実に多くの人物が登場し、それぞれの生き方が展開されていきます。さまざまな人物が生きた三国時代とはどんな時代だったのか、諸葛亮と曹操を中心に「三国志」の世界をご案内いたします。

- 日時：8月30日(木)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1000円



「赤壁」撮影：渡邊 義浩氏

## ◆古文書塾でらこや本講座◆

古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学んでいただける「古文書塾でらこや」。多種多様な講座を開講します。

	講座名	曜日・時間	開講日
特別講座 90分	自分の花押(かおう)を持つてみませんか	(火)13:30～	7/10
	大久保利通の手紙を読む	(火)19:00～	7/10
	浮世絵を読む【紅色クラス】	(水)10:30～	7/11
	浮世絵を読む【藍色クラス】	(水)10:30～	7/18
	商家文書を読みとくー三井の子弟教育	(水)19:00～	7/11
	くずし字で読み解く茶の湯の伝書	(木)13:30～	7/12
	江戸を楽しむー続「江戸の寺社あれこれ」	(木)18:30～	7/12
絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土)10:30～	7/14	

■会場：4階 セミナールーム(会議室) ■定員各23名(申込順) ■参加費：各13,650円(全5回講座・3か月分、別途資料代500円) ※古文書塾でらこやに関する資料をご希望の方には無料で送付いたします ※お問合わせ：電話 03-3502-3340

## 特別研究室 企画 展示

# 100年後も手に取れる本に 2018 ～内田嘉吉文庫修復報告～

●7月17日(水)～9月30日(日)

2017年度に行った内田嘉吉文庫蔵書の修復記録と修復を終えた本を展示し、長く使い続けるための工夫を凝らした本の修復を紹介いたします。大型の折本や唐草文様の布装の写真帖といった特徴的な製本の資料のほか、今回は江戸指物師により修復された外箱も展示し、資料の保存に適した修復について様々な視点から考えます。



(左より)「Japan, the Amoor, and the Pacific」 『通信事業図解』

## ポモース又広報室より

1903(明治36)年、本多静六によって日本初の「洋風近代式公園」として開園した日比谷公園は今年、115周年を迎えました。当時、花菖蒲や朝顔、菊といった花しか見たことがなかった人々にチューリップやパンジーなど西洋の植物を鑑賞する機会を作り、音楽堂では洋楽の演奏を、松本楼などのレストランでは洋食を楽しむなど西洋文化に触れる場所として人々を魅了しました。また、開園時、苗木として植えられた木々は今では立派に育ち、豊かな緑が現代の私たちへ憩いの場を与えてくれています。これから梅雨が明け、日差しが強くなるにつれ公園内の緑が深くなり、木々が主役の季節となります。100年を超える歴史に思いを馳せて日比谷公園を散策するのはいかがでしょうか。